

情報は時に人の命をも奪う 真実見抜いて冷静に判断を

―南丹市人権講演会―

9月20日、読売テレビ解説委員の辛坊治郎氏を講師に「『情報』の正しい選び方〜人権を侵害しないために」と題した人権講演会を南丹市園部公民館で開催しました。

辛坊氏は、取材・報道機会を通じて得た経験や考えを基に、ユーモアも交えながら分かりやすく情報社会の盲点を指摘。「情報は時に人の命をも奪う恐ろしいもの。『信じたこと』ではなく、『真実』を見抜いて、正しく判断していただきたい」と聴衆に訴えかけました。



▲よどみない口調で聴衆を引き付ける辛坊氏



▲処理前の汚水を確認する見学者

暮らしたきれいな川を結ぶ 下水処理の働きを理解して

―南丹浄化センター施設公開―

南丹浄化センター（八木町山室）は、桂川中流域下水道の処理施設で、園部・八木の地域569軒、16,637人の生活排水を処理しています。9月13日に行われた施設公開では約200人が訪れ、京都府職員の説明を受けながら沈殿池から、微生物が汚れを食べる生物反応槽、急速ろ過池などの施設を見学。園部町から訪れた船越千晴さん（小1）は「臭かった水がだんだんきれいになっていくのがおもしろかった」と話してくれました。

「完全参加と平等」理念に 精神を集中して、的を射る

―全京都障害者スポーツ大会
アーチェリー大会の部―

第28回目の開催となった9月28日、日吉総合運動広場でおよそ60人が練習の成果を発揮。京都障害者スポーツ振興会の主催で、5歳（初心者部）から50歳まで8種目あり、初心者には午前中に講習も行われました。参加された吉野隆さん（日吉町）は、「国体のころからアーチェリーは知っていたが、競技経験は11年ぐらい。地元で開催されるので積極的に参加しています。命中すると気持ちがいい」と魅力を話しておられました。



▲的を射抜くイメージで矢を放つ選手ら

恒久の平和への誓い新たに

―南丹市戦没者追悼式―

先の大戦で犠牲となられた南丹市1,886柱の英霊に対し、10月23日に京都府立口丹波勤労者福祉会館において追悼式を行いました。

戦没者に黙とうを捧げ、佐々木市長による式辞に続いて、南丹市遺族会清水隆会長らによる追悼の辞が述べられました。

最後に、列席した遺族の方々や関係者一人一人が白い菊を献花し、幾多の尊い命が犠牲となった戦争の悲惨さを忘れることなく、恒久の平和への誓いを新たにしました。



▲戦没者を追悼し、献花される遺族の方々